

飛驒山脈ジオパーク構想 ジオサイト(第17章)

岩盤から落下した夫婦岩

上宝町岩井戸は付近の山中に岩屋(岩宿)があり、岩宿が岩井戸に変化したといわれています。この岩屋は笠ヶ岳を再興し、槍ヶ岳を開いた播隆上人が修行した場所です。

岩井戸の川原に近いところに高山市の天然記念物の夫婦岩があり、付近には、巨大なれきがたくさん転がっています。これらの巨大なれきは、大まかに山裾に近いものと、高原川の中にまで転がったものと二つのグループに分かれるようです。

高原川の川筋は移動を繰り返したのでしょう。夫婦岩の表面は流れる他のれきに磨かれて滑



らかになっています。夫婦岩の脇の大きな岩には、社がまつられています。これらの巨大なれきは、尾根筋の高みから転がり落ちたもので、落下する様子は壮絶だったでしょう。

北側の尾根を見ると、中腹と尾根筋近くの二か所に、巨大なれきをもたらした岩壁が見えます。岩盤は、上宝火砕流堆積物と呼ばれ、福地温泉近くで64万年前に活動した火山の大規模な火砕流が堆積したものです。高温の火砕流は、溶けた状態に近い火山灰が高い密度で流れまします。流れが止まって堆積すると、再び溶け合って岩盤になります。

高温の岩盤は冷え固まる時に収縮します。すると、岩盤の内側には互いに引っ張り合う力が生まれ、それによって垂直方向に節理と呼ばれる規則的な割れ目ができ、時には岩石が割れ落ちてしまいます。北側の岩壁は、節理面から外側の岩盤が崩落した跡なのでしょう。

中腹から落ちたものは山裾に、尾根筋近くから落ちたものは高原川まで転がったと考えられます。

(飛驒地学研究会 直井幹夫)

【問合せ】 飛驒山脈ジオパーク推進

協議会

☎0578-84-0038